

事業名

「国民体育大会で得点獲得へむけたアクションプラン」

沖縄県バドミントン協会

赤嶺 靖

- ①皆さん、こんにちは。沖縄県バドミントン協会強化担当をしています。赤嶺と申します。よろしくお願ひします。バドミントン競技は企画提案型競技力向上対策事業を受けさせて頂いて3年目になります。
- ②まず始めに、今回の競技力向上対策事業の目標として国体で得点を獲得し、沖縄県の総合順位 30 位以内に貢献するという目標でスタートしました。
 - ・ 昨年も話しましたが、沖縄県バドミントン協会のこれまでの成績は、海邦国体を境に成績は下降し、九州ブロックを突破できない、もちろん得点も獲得できていないという状況でした。
- ③本国体で勝つためにはということで、いくつも要因はあると思いますが、主なものをあげています。まず、人材の確保ということで、選手の県外流出を止めることが一つだと思います。他県と戦う上で、もちろん選手は鍛えていきますが、能力のある選手が県外へ出てしまうと、ますます戦えなくなることから、県外流出を止めることを考えています。
 - ・ 現在は、高校進学時の流出はなんとか止まっている状況ですが、去年は中学進学から県外へ出てしまいました。小学6年生で九州で優勝するくらいの選手でした。県外私学でいろいろな好条件を出されると、もちろん気持ちは揺らぐと思います。これについては、今後このような事にならないように、対策を考えてかなければならないと思っています。
 - ・ それから、県内の選手・指導者共に、強化事業を通して、強い選手やその指導者とのプレーも含めた交流する、関わる機会を増やすことが必要だと思います。強い選手を育てる指導者の考え方や理念、信念、経験などを聞ける機会になりますし、強い選手の考え方や、競技に対する姿勢などを直接見聞きして、感じる事ができる機会になるとと思います。もともと刺激の少ない沖縄には必要な事だと思っています。
- ④この強化事業のおかげで、選手や指導者に定期的に刺激を与える事が出来ています。刺激の少ない環境なので、強化事業を通して刺激を受け、常に目標を持ち続けることを意識させる。それを最大限継続していくことが、強い選手を作るということに繋がると考えています。
- ⑤今年度、実施した内容です。バドミントンは1複2単で行われ、国体は3名で戦います。
 - ・ 男女各学年2～3名程度の選手を強化指定しました。選手選考はダブルス、シングルスに適性を見て、片寄りの無いように選んでます。対象は中3からになるので、新入生も選考にいれ、実績、運動能力等からみた将来性も含めて、強化指定選手を選んでいます。
 - ・ 県内での強化練習や合宿では、強化推進運動部に指定された学校や強化指定選手のいる学校を中心にいろいろとご協力頂きました。

- ⑥実施した内容で、県外遠征ですが、昨年の取り組みに加えて、今年度は関西の強豪大学にも伺い、鍛えてもらいました。こちらは立命館大学での練習の写真です。
- ・立命館大学の主将は沖縄水産高校出身で、今年度、成年男子の選手としても頑張ってくれました。
- ⑦また、継続実施して良かったので、全国総体に出場できなかった強化指定選手の遠征を今年も行いました。これは、全国レベルのプレーを、早いうちから選手に肌身で感じて欲しい。
- ・全国で戦うということとは、こういうことなんだという意識を持たせる、非常によい機会になっています。
- ⑧また、見るだけでなく、よりレベルの高い中で鍛えてもらうということで、日本体育大学で練習させていただき、日体カップという強化大会へ参加させていただきました。
- ⑨また、九州ブロック国体前には熊本県の国体練習にも参加させていただきました。熊本の少年男女もレベルは高いのですが、成年は日本トップリーグの選手もおり、かなりレベルの高い練習会でした。
- その中で、九州ブロックで勝つための、他県への対策など情報を得る事もできました。
- ⑩本国体前の9月には埼玉栄高校と一緒に練習させていただきました。男子は今年度の全国総体で団体優勝した全国トップチームで、非常にレベルの高い中で練習をさせていただきました。
- ⑪本国体前には、また立命館大学で練習させてもらい、最終調整を行いました。
- ⑫チーム招聘事業では昨年に引き続き、埼玉栄高校に来て頂きました。昨年も来て頂いた後の成果が非常に良かったので、今年度もお願いしました。全国優勝のトップチームで、特に男子では世界ジュニアミックスダブルス3位の選手、全国選抜女子シングルス優勝した選手も来てもらいました。
- ⑬写真の左上の矢印は選抜優勝の女子、左下の矢印は世界ジュニアミックスダブルス3位の選手です。
- ゲームのやり方も監督からいろいろとアドバイスいただき、練習の一つとして、栄の選手と組ませてダブルスのゲームを行うことで、今まで以上にラリーが繋がり中身の濃い練習ができたりと、非常に充実した練習が出来ました。
- ⑭この写真だけでは紹介できないくらい、本当にたくさん試合もして頂き、アドバイスも頂きました。

- ⑮今後予定している強化事業はコーチ招聘事業でキム・ソンスクさんに来て頂く予定です。
日本のジュニアナショナルの元コーチで、現在は日本体育大学女子バドミントン部のコーチをされている方です。
- ・写真は昨年のもので、去年、一昨年と来て頂き、フィジカル、テクニック、メンタル等、沖縄の選手の特徴や足りないところなど様々なアドバイスをして頂きました。
 - ・国体のダブルスのペアリングなど、県外で戦えるペアのアドバイス頂き、好結果につながりました。
- ⑯チーム招聘事業も予定しており、今年度は日本ユニシスの男女にお願いしております。
男女共に日本のトップチームで、日本代表選手も有するチームです。女子ダブルスでは世界ランキング1位の高橋・松友ペア、女子シングルスでは年末のスーパーシリーズファイナルで優勝した奥原選手、男子ダブルスでは日本勢の世界ランキング最上位の早川・遠藤ペアなど素晴らしい選手が所属するチームです。
- ・写真は県協会が競技力向上・普及を目指し、誘致した日本リーグ沖縄大会の写真で、去った12月に豊見城市体育館で行われました。矢印の選手は日本代表選手です。
 - ・今現在、日本代表選手は「リオオリンピック出場」をかけて、世界ランキングをあげるために国際大会を回り、戦っているため、スケジュールのタイミングが合うかが心配されております。
- ⑰今年度の事業の成果です。少年男子は九州ブロック国体からの出場でした。まずは本国内の出場権を勝ち取ろうと、初戦の鹿児島に挑みましたが、競り負けてしまい、後がない状況になってしまいました。しかし、何とか選手を奮い立たせ、順位決定戦を勝ち抜き、九州地区第4代表として本国内の出場権を獲得することが出来ました。
- ・今までであれば、敗戦のショックから、そのまま失速していきそうな状況でしたが、これまでの強化事業の積み重ねから、自力をつけてきたので、なんとかふんばることが出来たと思います。追い詰められた苦しい中、選手はよく頑張ったと思います。
- ⑱やっとなかなか本国内出場権で、「紀の国わかやま国体」に出場したのですが、初戦が同じ九州地区1位の熊本との対戦となってしまいました。昨年からの組み合わせ方法が変わり、シードを組んだ後はフリー抽選になっているようで、地区の考慮はしないとのことでした。
- ・他の地区であればお互いに手の内は、やっていく中でしかわかりませんが、一番選手強化で世話になった熊本は、こちらの手の内のすべてを分かった、一番やりたくない相手でした。
 - ・選手は頑張って、良いプレーもしましたし、すごいショットも決めるのですが、沖縄を良くわかっているため、すぐに切り替えて対応されていました。
 - ・これが他地区であれば、こちらの良いプレーに驚いたり、警戒したりして、次は何をしてくるんだろうというプレッシャーを与えることができると思うのですが、それがほとんど出来ませんでした。
 - ・こちらにあるように、非常に実績のある熊本を相手に、選手は諦めず、スコア以上によく頑張ったと思います。
 - ・こういった状況を、どうすればよかったのか？監督としてもまだまだ力不足を感じております。

⑱今後期待できることです。少年男子の選手3名中2名は2年生です。中学の実績もあり、非常に能力は高く、私自身も期待しております。九州ブロック国体では、昨年度九州選抜大会の優勝ペアにも勝つことが出来ました。

- ・また、先月行われました、「全九州高等学校選抜バドミントン競技大会」ではダブルスで勝ち抜き、九州の第2代表として3月に山形で行われる全国選抜大会の出場権を勝ち取ることが出来ました。
- ・また、今回の九州選抜大会の戦いぶりが評価され、全日本ジュニア合宿にも推薦され、今月4日から参加してきました。
- ・次年度はこの二人を中心に、今年度できなかった本国体での得点獲得にチャレンジしたいと思っております。

⑳今後の課題ですが、大きく二つあげております。

- ・まずは「基本の大切さ」ということで、身体作り、基礎体力の向上です。タフな体づくり、連戦になっても戦える力をもっとつけないといけないと思っています。
- ・それから基本プレーの徹底で、攻撃や守りにおいて、強い選手はまずミスが少ない、ミスをしません。単純なミスを練習の段階からどう減らしていくか？基本から徹底して、ミスをどうなくしていくか？だと思います。
- ・それから「対応力の更なる向上」です。
大会や強化事業をとおしていろいろな場面での経験を積み重ねること、継続していくことだと思います。
- ・まだまだあと一步勝てない状況なので、細かく言えばまだ、色々と課題はありますが、この強化事業や取り組みをを経て、選手は着実に力をつけております。
- ・この企画提案型競技力向上対策事業を経て、鍛えた選手たちが、次年度は国体においても頑張っ、活躍してくれると信じております。

㉑このような機会を与えていただいた沖縄県体育協会をはじめ、関係各位に感謝申し上げると共に、これからも選手、指導者が力を合わせ、何事にもチャレンジし、アクションを起こして、頑張っていきたいと思っています。ご清聴どうもありがとうございました。